

【2022年卒 就職活動TOPIC】 説明会参加後にエントリーしない理由とは？ 実施形式よりも仕事内容、興味、雰囲気が伝わるかがカギ

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘）のよりよい就職・採用のあり方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：増本 全）は、就職みらい研究所学生調査モニターの大学生・大学院生を対象に「就職プロセス調査」を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

実施形式別の説明会参加後エントリー率は対面よりWebの方が高い



所長 増本 全

新型コロナウイルス感染症の影響により、就職・採用活動でWebの活用が進み一年が経ちました。就職活動にどのような変化があったのでしょうか。学生の説明会参加企業数を調査すると平均19.7社と、前年と比べ5.1社増加しています。特にWeb説明会の参加企業数は7.7社増加し17.3社となり、対面では2.3社減少し4.5社とWebの参加企業数が多くなっています。応募の決め手となった情報源を聞くと、「個別企業の説明会・セミナー」が55.8%と最も高く、Web説明会が情報収集、

応募行動を決める重要な機会だと分かります。Web説明会について人事から聞くのは「Web説明会は対面と比べてその後の選考につながらないのでは」という声です。そこで説明会参加後に採用選考にエントリーしたかをWeb・対面別に調査（6月12日時点）したところ、全体のエントリー割合は69.0%と前年と比べ5.6ポイント減少したものの、Web説明会参加後のエントリー率は69.9%。一方で対面では62.2%とWeb説明会の方が選考に進む割合が高いことが分かりました。では人事が気にしている「選考につながらない説明会」とはどのようなものなのでしょうか。学生に「説明会に参加したもののエントリーしなかった理由」を聞くと、仕事内容、興味、雰囲気といった言葉が多く見られます。学生のコメントを見ると「社風が違うと思った。人事の人で判断するのは良くないと思うが、会社全体の印象を受け持つのに違和感を感じた」「社員同士の雰囲気など、上司が偉そうにしていた」といったものがありました。仕事内容や社風を見て合わない判断したり、視野を広げようと参加したが興味がわからないというコメントが多いものの、中には人事の姿や社内コミュニケーションの様子などでエントリーしないと決めているものもありました。自社の説明会を客観的に見ることは難しいかもしれませんが、説明会の雰囲気が本当に社風と一致しているのか、伝えたい会社の様子が伝わっているのかを振り返り、今後より表現方法や見え方を磨く必要があるでしょう。

実施形式別の説明会参加企業数の平均／説明会参加後のエントリー率

大学生_全体（就職志望者・各活動経験者/数値回答）※大学院生除く

▼2022年卒		説明会参加企業数の平均	説明会参加後 エントリー企業数の平均	説明会参加後の エントリー率
説明会参加者全体		19.7社	13.6社	69.0%
実施形式	Web	17.3社	12.1社	69.9%
	対面	4.5社	2.8社	62.2%

※「説明会参加後のエントリー率」は、「説明会参加後エントリー企業数の平均」÷「説明会参加企業数の平均」で算出

※「説明会参加後エントリー企業数の平均」は、インターンシップからのエントリーや説明会実施なしのエントリーについては含まない

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

I. 実施形式別の説明会参加企業数の平均／説明会参加後のエントリー率

説明会参加企業数の平均は増加し、説明会参加後のエントリー率はやや減少

- ・説明会参加企業数の平均については、2021年卒（14.6社）に比べ、2022年卒は19.7社と増加している。
- ・平均エントリー企業数は前年に比べやや増えているが、説明会参加企業数の平均の増加幅の方が大きいため、説明会参加後のエントリー率は減少している。
- ・Web・対面という実施形式では、Web説明会の方が説明会参加後のエントリー率が高い。

実施形式別の説明会参加企業数の平均／説明会参加後のエントリー率

大学生_全体（就職志望者・各活動経験者/数値回答）※大学院生除く

▼2022年卒		説明会参加企業数の平均	説明会参加後 エントリー企業数の平均	説明会参加後の エントリー率
説明会参加者全体		19.7社	13.6社	69.0%
実施形式	Web	17.3社	12.1社	69.9%
	対面	4.5社	2.8社	62.2%

▼2021年卒		説明会参加企業数の平均	説明会参加後 エントリー企業数の平均	説明会参加後の エントリー率
説明会参加者全体		14.6社	10.9社	74.7%
実施形式	Web	9.6社	7.2社	75.0%
	対面	6.8社	5.1社	75.0%

※「説明会参加後のエントリー率」は、「説明会参加後エントリー企業数の平均」÷「説明会参加企業数の平均」で算出

※「説明会参加後エントリー企業数の平均」は、インターンシップからのエントリーや説明会実施なしのエントリーについては含まない

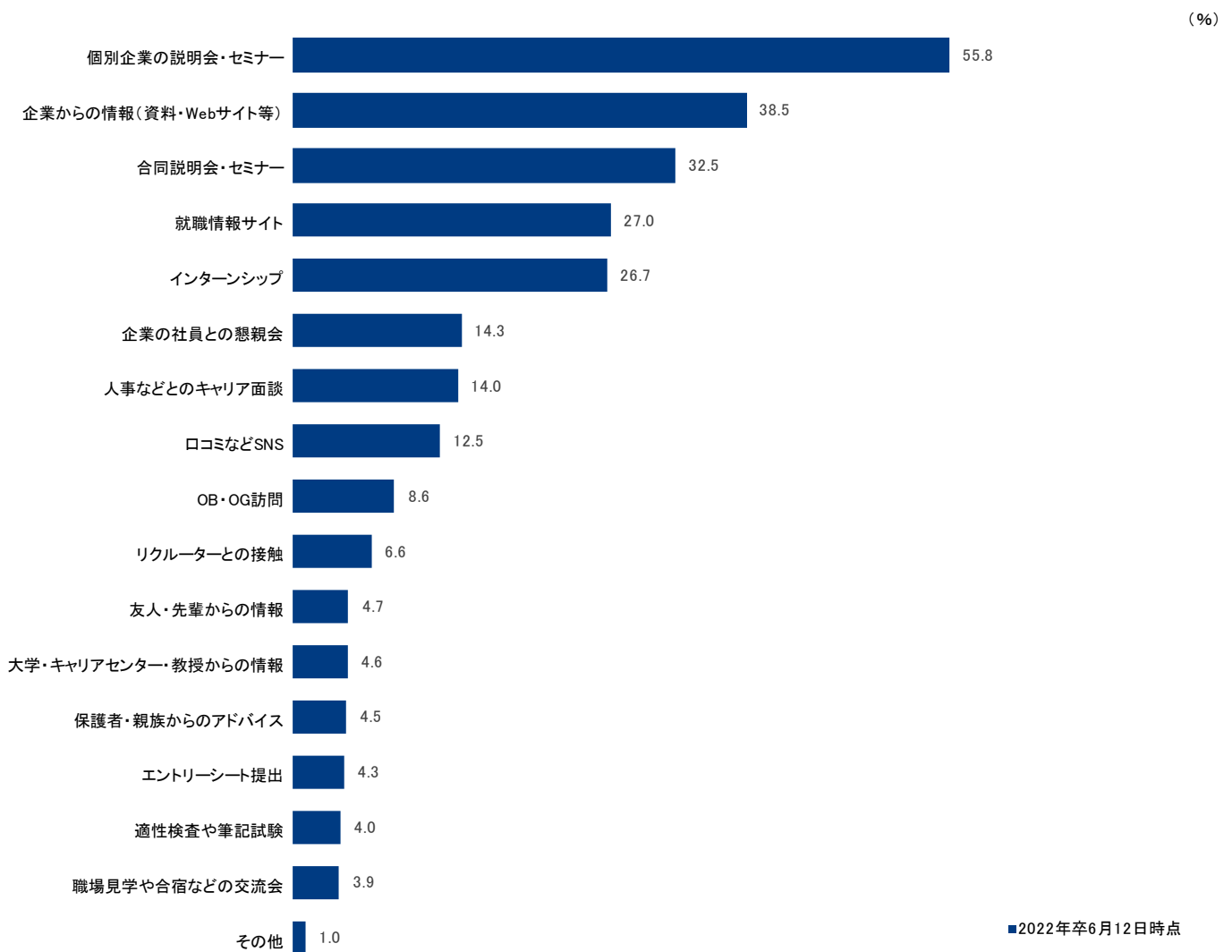
II. 企業応募の決め手となった情報源

応募の決め手となった情報源は「個別企業の説明会・セミナー」が最も高い

- ・ 応募の決め手となった情報源は「個別企業の説明会・セミナー」が最も高く、55.8%だった。
- ・ Web・対面での実施を合わせた説明会参加企業数の平均が前年に比べ増加している（P.2）ことから、学生が企業に応募するための判断材料を説明会からより多く収集できる状況になったと推察できる。

応募の決め手となった情報源

大学生_全体（就職志望者・エントリー経験者/3つまで回答）※大学院生除く



Ⅲ.説明会参加後選考にエントリーしなかった理由

仕事内容・業務内容、興味、雰囲気といった単語が含まれる

- ・説明会参加後に選考にエントリーした割合は69.0%(P.2)だったが、エントリーしなかった理由を聞いたところ、回答には仕事内容・業務内容、興味、雰囲気といった単語が含まれる。
- ・各回答を見ると、上記に関して説明会前後でギャップが生じたり、エントリーに足る情報が得られなかった様子がうかがえる。

説明会参加後選考にエントリーしなかった理由の中で各単語が含まれる回答数

大学生_全体（就職志望者・説明会参加したが選考にエントリーしなかった経験あり/自由回答）※大学院生除く

回答数 全体	各単語が含まれる回答数				
	仕事内容 業務内容	興味	雰囲気	社風	事業内容
875 件	116 件	112 件	117 件	70 件	55 件

説明会参加後選考にエントリーしなかった理由（自由回答）

大学生_全体（就職志望者・説明会参加したが選考にエントリーしなかった経験あり/自由回答）※大学院生除く

コメント	文理・性別
説明会前の情報と説明会後の情報が違っている部分があった。たとえば社員同士の雰囲気など、上司が偉そうにしていたなど。	理系男性
説明会で社員の方の雰囲気が自分と合わなそうだったから、その会社で働くことに魅力を感じなくなったから。	文系女性
セミナー中の様子から社風が合わないと感じた。	文系女性
社風や実際の仕事内容が想像していたものと異なっていたため。また説明して頂いている人事の方の人柄で、エントリーするかどうかを決めました。	文系女性
社風が違うと思った。人事の人で判断するのは良くないと思うが、会社全体の印象を受け持つのに違和感を感じたのは不安要素だった。	文系女性
人事の印象が悪く（態度が悪い）、会社のイメージも悪くなった。また、説明が雑で業務内容も大して分からなかったから。	文系女性
私が、興味のある業務内容と異なっていたためです。また、座談会に参加し働いている方の雰囲気や社風とのマッチ度の低さも挙げられます。	理系男性
思っていた仕事内容や雰囲気と異なっていた。エントリーシート提出期限が早すぎた。	文系女性
志望業界に興味があり説明を聞いたが、会社の雰囲気や働き方が自分に合わないと感じたため。	文系女性
説明会のお話を聞いても興味が持てなかった、思ったのと違った、ESに取り組もうとしたが設問内容的になかなか書けず断念した。	文系女性
自分が興味あるか否かを確認するために説明会に参加した。そのため、興味がないと感じた企業にはエントリーする必要はないと思っている。	文系男性
事業内容への魅力をあまり感じないまま説明会に参加し、会の中で志望度が高くならなかったため。	文系男性
事前に下調べをして得た内容と、実際に説明会での内容が乖離していたり、働く人の話を聞く機会があったものの、楽しく働いているように思えなかったから。	文系男性
人事の印象が悪かったり、エントリーシートの記入量が多くめんどくさくなったり、想像していた事業・仕事内容と異なっていたから。	文系女性
エントリーシートの期限が複数重なったため。	理系女性

調査概要

調査目的 | 大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する

調査方法 | インターネット調査

集計方法 | 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体を基に、実際の母集団の構成比に近づけるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

2022年卒：2021年6月12日時点

調査対象 | 2022年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2022』（※）にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生8,736人（内訳：大学生7,261人/大学院生1,475人）

調査期間 | 2021年6月12日～6月17日

集計対象 | 大学生 1,727人/大学院生 557人

※リクナビ：株式会社リクルートが運営している、就職活動を支援するサイト

<https://job.rikunabi.com/2022/>

2021年卒：2020年6月12日時点

調査対象 | 2021年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2021』にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生4,198人（内訳：大学生3,325人/大学院生873人）

調査期間 | 2020年6月12日～6月19日

集計対象 | 大学生 915人/大学院生 377人

モニターの抽出条件

「卒業後の志望進路（志望する進路の全て）」の回答状況を基に、次の条件で対象を抽出

本調査対象 = 「就職意向者（就職志望者 + 志望進路未決定者）」（※モニター募集時）

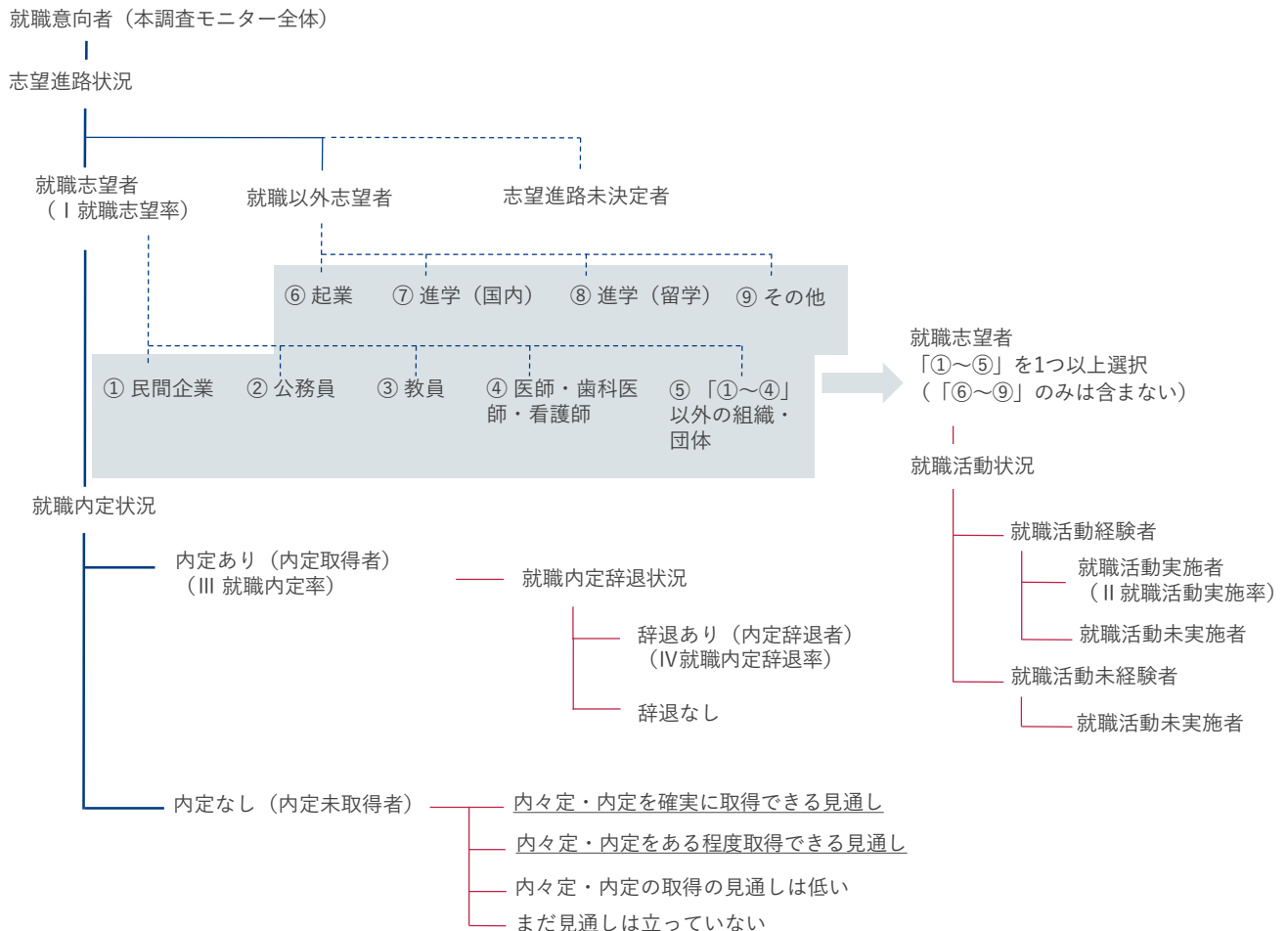
本調査対象については、以下を除いた

- 就職志望者のうち「②公務員」「③教員」「④医師・歯科医師・看護師」のみ選択した者
- 就職以外「⑥起業」「⑦進学(国内)」「⑧進学(留学)」「⑨その他」のみ選択した者

調査結果を見る際の注意点

- 「内定率」は内定・内々定を含む。政府の要請における正式な内定日は10月1日以降である
- %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある
- 「前回差」「前年同月差」の単位は、「ポイント」
- 本資料での「前年」とは、「2021年卒」を示す

就職志望者から見た内定状況の構図



<各率の算出方法>

I 就職志望率	=	就職志望人数 ÷ 就職意向人数
II 就職活動実施率	=	就職活動実施人数 ÷ 就職志望人数
III 就職内定率	=	就職内定取得人数 ÷ 就職志望人数
IV 就職内定辞退率	=	就職内定辞退人数 ÷ 就職内定取得人数

<用語の定義>

● 就職意向者	=	当初 (本調査モニター募集時) の志望進路が「就職」および「未決定」者
● 就職志望者	=	当月、就職を志望している者
● 就職活動実施者	=	当月、就職活動を実施している者 (※)
● 就職活動経験者	=	当月までに就職活動の経験がある者
● 就職内定取得者	=	当月までに内定 (内々定) の取得経験がある者
● 就職内定未取得者	=	当月までに内定 (内々定) の取得経験がない者
● 進路確定者	=	当月、進路が確定している者
		進路確定率 = 進路確定人数 ÷ 就職意向人数
● 就職内定辞退者	=	当月までに内定 (内々定) の辞退経験がある者

≪地域区分の内訳≫

○ 関東	=	東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県
○ 中部	=	静岡県、愛知県、岐阜県、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県
○ 近畿	=	京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、滋賀県
○ その他地域	=	「関東」「中部」「近畿」以外の地域

※就職活動実施状況について、「している」「していない」の選択肢のうち、「している」と回答した者